

令和4年9月

町長日誌

日南町では、林業に携わる人材の育成制度を設けています。平成21年から平成30年までは「林業研修生制度」を実施し、平成31年には「にちなん中国山地林業アカデミー」を開講し、今日に至っています。

来年度の学生募集のため、8月・9月にはオープンキャンパスを実施しました。8月は5名、9月には7名のご参加がありました。多くの方に関心を持っていただいていることに感謝し、しっかりとした学校運営に励んでいきたいと思えます。

「日本は資源のない国だ」とよく言われます。しかし、日本の国土の約67%は森林で、OECD（経済協力開発機構）では世界2位の森林立国であります。その森林の約5割が天然林、約4割が人工林、残りの1割が竹林や木のない土地と言われており、その割合は数十年間変わっていません。しかも毎年年間約8千万立米が蓄積している状況です。

木材は、昭和の早くから自由化となり、外国産の安い木材が輸入され、「儲からない生業」の状態が続いています。林業に携わる人は高齢化し、若者の新規就職も減少しています。

昨今は地球温暖化による異常気象の原因とされる温室効果ガスの削減が叫ばれています。その中で森林は、光合成により大気中の二酸化炭素を吸収し、炭素を貯蔵しながら成長することから、二酸化炭素の吸収源・貯蔵庫として重要な役割を發揮しています。

本町は、世界有数の森林資源を保有する日本の中で、全国1,718市町村中253番目に広い森林面積を持つ町です。そんな町として本町は、持続可能な林業の実践に向けて、材木からエネルギーまで「木を使い切る」ことと、担い手の育成を最重要課題として取り組んでいきます。

12月には林業アカデミーの令和5年度入学試験があり、全国から多くの応募があることを見込んでいます。林業アカデミーでは、広大な実習林を活用した現場実習や安全教育を受けることができます。本町では、林業アカデミーから「しっかりとした技術と知識」を持ち全国で活躍できる人材を今後も輩出してまいります。

令和4年9月24日 日南町長 中村英明